

団体に向かって 弓道強化に進む



ゴム引き射法の練習をする競高弓道クラブ員

昭和六十三年の京都府内で、綾部市はバレエ団と弓道の開墾地(内定)になっていました。これを契機に、これまで取り組んでいた比較的手薄であった弓道も、その強化が徐々に進められていきます。

まず府立綾部高校には弓道クラブが誕生、毎週木曜日に練習を始めた。これは、府の弓道関係者からの強化要望もあって、同校必修クラブ活動の中に加えたもので、現在は、六月旬現在(女子二十一人、男子二十一人)の体制で活動している。

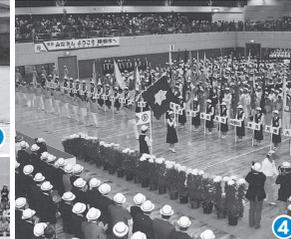
市では、梅原清さんは「強化するには、指導者の養成とともに底辺の拡大が必要。弓道に少しも関心のある人は、一度練習を見てほしい」とのこと。初心者に貸身する道具も用意してあるそうです。

法など、基本的なことを習得中ですが夏休みからは、里町久田の市弓道場で、綾部弓道協会から道具を借りて練習する予定です。

一方、綾部弓道協会では、これまで週一だった弓道教室を水曜日と金曜日の二回に増やして、午後六時から九時まで市弓道場で開いています。

会長の梅原清さんは「強化には、指導者の養成とともに底辺の拡大が必要。弓道に少しも関心のある人は、一度練習を見てほしい」とのこと。初心者に貸身する道具も用意してあるそうです。

▲京都国民体育大会を前に、本市が会場の種目・弓道の強化について紹介する記事。府立綾部高等学校では、弓道部が発足しました。翌年の昭和59年には、上杉町の総合運動公園弓道場が竣工。近似的10人立と府内最大規模で、府北部では唯一遠的弓道場を備えています



写真①～④は、昭和63年に開催された京都国民体育大会の様子。半世紀に一度、府が会場となる同大会。本市はバレエボールと弓道の開催地となり、多くの人が会場に詰め掛けて声援を送りました



中丹広域農道、全線開通

由良川沿いに旭町と福知山市荒河を結ぶ「中丹広域農道」(総延長約22.6km)が、着工から26年を経て全線が開通しました。同農道は総事業費134億6000万円を要し、昭和50年から工事を進め、平成元年に旭町から井倉町までの8.7%が開通。残る井倉町から福知山市荒河までの13.9%のうち未完了であった6.4%がこのほど完成しました。

中丹広域農道地推進協議会(会長、四方八洲男市長)は11月26日、高津町のJR高津駅北側の同農道で開通式典を開催。式典には、荒巻禎一・京都府知事はじめ、関係者約70人が出席しました。

式の中で四方市長は「同農道の完成をきっかけに、中丹地域に居住するわれわれが手を携え、農業振興に尽力することを誓い合いたい」とあいさつ。その後テープカットやトラクターと関係車両によるパレードを行い、完成を祝いました。

▲中丹広域農道の全線開通を紹介する記事。農産物の出荷や流通の合理化、農業の近代化を図ることを目指して進められた工事は、26年かけて完成しました



綾部の自然がカレンダーに

市環境市民会議(高澤弘明会長)はこのほど、「花と緑のカレンダー」を作製しました。

このカレンダーは、同会議の花と緑の部会が、綾部に咲く草花を紹介し、環境美化意識を高めようという趣意を込めて作製しました。

カレンダーには、四季折々の花が楽しめるスポットや市内の行事日程なども掲載されています。

▲環境市民会議が「花と緑のカレンダー」を初めて作製したことを紹介する記事。市内の美しい自然や風景が掲載されている同カレンダーは毎年好評で、あやべ観光案内所(駅前通り)、あやべ特産館(青野町)で販売しています

東日本大震災 なすすべなく、もどかしい 派遣職員、惨状語る

3月11日の東北地方太平洋沖地震は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録。日々、甚大な被害状況が明らかになっていきます。一方で、救援活動も本格化。本市も4月14日までに、職員20人が患者の搬送や給水の支援も予定しています。今後、保健師の派遣も予定しています。

富城県の合同庁舎だけを壊し、がれきの山と化した南三陸町=3月14日、市消防職員撮影

「緊急消防援助隊京都府隊」の要請を受け、市消防本部の第2次派遣隊として災害現場に赴きました。初めて目の当たりにした津波の被害は、それまでの訓練とは全く別物の、経験したことのない惨状。その中でも、多くの人から感謝や激励の言葉をいただき、皆さんの消防に対する期待を身に染みて感じました。

この経験を後輩に引き継ぎ、訓練に励むとともに、日ごろから大災害に対して備えています。



東日本大震災で
救援活動に
従事した消防職員
吉田好弘

WANTED 白球を追いかけた球児を探せ!

綾部高等学校ソフトボール部男子が、インターハイでベスト8入り。そのうち10人が府の選抜チームとして山形国体に出場し、第3位という好成績を残しました。



植原英一さん(里町) 塩見哲司さん(物部町出身) 谷口一廣さん(多田町)

厳しい練習を乗り越えてインターハイや国体に出場し、上位入賞を果たせたことは一生の思い出。国体の開会式では3年間を思い出し、身の引き締まる思いで行進したことを覚えていきます。よき先輩や後輩に恵まれ、一緒に汗を流した日々は今でも懐かしいです。

666号 平成23(2011)年4月



- ### 1年の主な出来事
- 第5次綾部市総合計画スタート
 - 少年少女消防クラブ発足
 - 東日本大震災発生
 - サッカー日本女子代表がワールドカップ初優勝
 - テレビが地上デジタル放送に完全移行

555号 平成13(2001)年12月



- ### 1年の主な出来事
- あやべ観光案内所オープン
 - 保健福祉センターオープン
 - ユニバーサル・スタジアム・ジャパン開園
 - アメリカ同時多発テロ事件発生

444号 平成4(1992)年9月



- ### 1年の主な出来事
- 西部グラウンド完成
 - 資料館完成
 - 宇宙飛行士の毛利衛さんが宇宙へ出発
 - 学校週5日制スタート

333号 昭和58(1983)年6月



- ### 1年の主な出来事
- 中央公民館竣工
 - 中丹文化会館竣工
 - 消防署上林分駐所開所
 - 東京デイズニラランド開園
 - 任天堂が「ファミコン」を発売

市政を伝え69年

本市の広報紙は、今から69年前の昭和26（1951）年4月1日に創刊しました。前年の8月1日に市制が始まったから、8か月後のことですね。昔はパソコンやデジタルカメラなどはなく「写真を現像すると、何も写っていないこともあった」と、失敗談を話す過去の担当者も。これまで皆

さんのご協力をいただきながら、市の情報をお伝えしてきました。

市は、市制施行30周年・広報あやべ300号を記念し、昭和56年1月に「広報あやべ縮刷版」を発行しました。縮刷版は、図書館で貸し出ししています。また、昭和51（1976）年4月（247号）以降は、市ホームページで公開していますのでご覧ください。

編集後記

いかがでしたか？「市制施行70周年の7月に777号」という、7がそろう二度ない機会。市民の皆さんに楽しんでいただくとうと、特集をお届けしました。これからも皆さんのご理解とご協力のもと、担当者一同よりよい紙面づくりに励みます。今後ともよろしく願います。

777号記念プレゼントクイズ



Q 今月号の表紙と左の写真を
見比べてみよう！
1つだけ違うところがあります。
さて、どこでしょう。

表紙に登場していただいたのは、綾部中学校野球部の内藤愛翔さん、バスケットボール部の四方仙さん、ソフトボール部の菱田ゆきのさんです。ご協力ありがとうございました。



※商品写真はイメージです

正解者の中から抽選で7人に『あやべ大好き BOOK』綾部市制70周年記念スペシャル版とまゆびグッズ（ストラップ、シール）をプレゼントします。
ふるってご応募ください。

応募方法：クイズの答え▽住所▽氏名▽年齢▽電話番号▽広報紙への感想一を記入の上、郵送かメール、ファクスで秘書広報課へ
応募締切：8月11日（火）必着
宛先：〒623-8501 綾部市若竹町8-1
綾部市役所秘書広報課 ねつと7月号クイズ係
メール hisyokoho@city.ayabe.lg.jp
ファクス (42)4905
(問い合わせ) 同課(42)4205

正しい知識を身につけて

人権強調月間

京都人権啓発推進会議（会長、西脇隆俊・京都府知事）は毎年8月を人権強調月間と定め、人権啓発事業を実施しています。人権とは、人が人として生きるために、生まれながらに持っている権利です。この機会に、改めて人権について考えてみましょう。

時代に沿った計画を策定

市はこのほど、第3次人権教育・啓発推進計画「人権かがやきプラン」を策定しました。平成27年に策定した同計画期間終了に伴い改定したものです。計画には平成28年に

施行された人権3法（障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消法）を施策に反映。また、インターネット上での誹謗中傷や性的少数者（LGBT等）などの新たな人権問題にも配慮した計画になるよう見直しました。

同計画の基本理念は「誰もが安心して心豊かに暮らしていける 真に 人権が尊重される まちづくりをめざして」。市は、同和問題（部落差別）をはじめ、さまざまな人権問題を解消するため、同計画に沿って人権施策をより総合的、効果的に進めます。

研修で正しい知識を

市は同計画の策定前（平成30年）に市民調査を実施。「校区内に同和地区があることで住宅購入をやめた」の問いに37・9割が「問題だと思わない・どちらともいえない」と答えるなど、偏見や差別意識がいまだに残っていることが明らかになりました。

また、新型コロナウイルスのまん延によって、感染者や医療従事者、その家族に対する不当な差別や偏見という大きな問題が起ころうとしています。

市は人権に対する意識を正しく理解し認識を深めるために、さまざまな人権問題に関する研修を実施しています。人権を深く考える機会として、積極的にご参加ください。



善言語録

125

不思議な勝利

猛威をふるった新型コロナウイルスは収束の兆しを見せながらも尚、浮沈みを繰り返すような勢いだ。それでもパンドミックスに及んだ世界に比し相対的に軽く収まった日本は、独自の医療制度のお陰とか、BCG接種の効用とか諸説あるが、その要因は特定できず、ノーベル医学生理学賞の山中教授も「グアタターX」と明言を避ける。正に「不思議な勝利」？であり、海外でも大きく報じられた。故野村克也元監督の名言に「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」があるが、偶然勝つことはあっても負ける時には必ず原因があるもので、勝つても奢らず足りぬ点を反省する大切さを説

いたものと解釈する。

今回のコロナ禍への対応は各国で分かれた。まちな全体を封鎖した国もあれば外出者に罰則を適用した国、国民の大半に抗体を持たせようとした国など。その中の「要請」一言で、国民の動きが止まった。それは見事なまでに。本市に至っては感染者が発生した途端、まちな空気が一変し、「要請」を出す前に市民活動は自ずからストップした。己への感染を恐れたのはもとより、身内に、更には他人にも感染させてはならないという気持ちの重なる行動と察する。これは「ムラ社会」で共生していく術とも言えるが、他を思いやる気持ちの発露ともこれよう。災害時に避難を躊躇う人掛けの言葉で最も効果的なのは、「家族が悲しみますよ！」だという。日本モデルとして誇るべきは、国の要請に従順な気質というよりも、他人や地域に想いを巡らせる和の精神にあるのではないだろうか。

山崎善也（綾部市長）

今年もやります！

健康長寿定期65半額キャンペーン

市は本年も敬老の日に合わせて、あやべ健康長寿定期65の半額キャンペーンを実施します。この機会に、お得で便利な定期券をご利用ください。



9月中の購入が対象
半額の対象になるのは、65歳以上の人が購入できる「健康長寿定期65」です。同定期券は1か月3000円で全線乗り放題。9月1日（火）～30日（水）のキャンペーン期間中は、半額の1500円で販売します。定期券は、市役所市

民協働課の窓口かあやべ観光案内所（駅前通り）、上林いきいきセンター（八津合町）で購入できます。初回購入の方は、健康保険証等の年齢が確認できるものを持参してください。

感染症対策を実施

新型コロナウイルスの全国的な流行を受け、市は、あやバスを安全・安心に利用していただくため、すべてのバス車両内を除菌コーティングします。

また、バス運転手のマスク着用や勤務前の体温測定なども実施。さらに、運転席から近い座席は使用不可にするなど、感染予防対策をしています。安心してご利用ください。

人権を考えるセミナー

市教育委員会は、差別解消に向けたセミナーを毎年開催しています。人権を学ぶ機会に、ぜひお越しください。

日時 8月27日（木）
午後3時～、6時30分～
(2回上映)

場所 中丹文化会館（里町）

内容 「ある精肉店のはなし」上映会

定員 各回400人程度

その他 送迎バスあり。
詳しくは社会教育課へお問い合わせください

<問い合わせ>
社会教育課 ☎(42)4326



複数月分を購入した場合、半額の対象になるのは1か月分のみです